



子どもの笑顔は、世のなかの安穩

—親鸞聖人 750 回大遠忌法要行事（少年行事）「子どものつどい IN 本願寺」によせて—

松 月 博 宣

宗祖が御消息第 25 通の中で、

仏の御恩をおぼしめさんに、御報恩のために、御念仏ころにいて申して、世のなか安穩なれ、仏法ひろまれとおぼしめすべしとぞ、おぼえ候ふ。（『註釈版聖典』784 頁）

と記されたお心を、現代に生きる私たちが身近なところから具体化することが、750 回大遠忌法要のご縁に遇う意味であると考えます。

2 年前、東京の秋葉原における無差別殺傷事件を引き起こした当時 25 歳の容疑者が、公判でその犯行理由を「今まで無視した奴らへの復讐だった」と彼自身の口から供述しています。この容疑者と同じ年（1983 年）に生まれた酒鬼薔薇聖斗と名のつた当時 14 歳の「少年 A」は、1997 年に起きた神戸連続児童殺傷事件の犯行声明文らしき文章の中で、「限りなく透明であり続けるボク」と記しています。

どちらからも、自分という存在、あるがままの自分を認知してもらえない環境下の「やり場のないほどの孤独」の中で、「心をすり切らし」ながら生きていた少年たちの日々が想像できます。

この二人の言葉のみですべてを語るができないことは承知していますが、これは現代の子どもや青年たちの置かれている状況を象徴的に表す「心の叫び」の一つとうかがうことができます。

極度に発達した情報化社会と経済至上主義、それに伴う成果主義が、「落ちこぼれ」「負け組」と呼ばれる人を産み出し、「格差社会」などと呼ばれる世のなかで、一人一人を「孤立化した環境」に追いやり、大人だけではなく子どもや若者から「笑顔」を奪っていく。このような世のなかを、決して「安穩」とは呼ぶことはできません。

子どもや若者たちの笑顔は、私たち大人の笑顔につながります。笑顔の見えない社会を「安穩」とは言えないでしょう。子どもも大人も、心からの笑顔で生きていける社会を目指すことが、私たちの課題です。

さて、この度の 750 回大遠忌法要に際して、各年代と性別の行事が種々計画されています。その中の一つに、明年 7 月に予定されている少年対象行事「子どものつどい IN 本願寺」

があります。サブタイトルを「本願寺キッズサンガ・児童念仏奉仕団」としています。

この少年行事の目的を、

親鸞聖人750回大遠忌法要への参拝と清掃奉仕や楽しい行事を通して、本願寺に親しむとともに、子どもたちに阿弥陀さまと親鸞聖人にであってもらい、ご縁づくりの場として開催します。このつどいは、例年行っております児童念仏奉仕団と、宗門挙げて取り組んでおりますキッズサンガの願いを含んだ行事といたします。

としています。

この目的にも謳われておりますように、大遠忌をご縁に始められています「子どもたちに阿弥陀さまにであってもらい環境（ご縁）づくりを、ご門徒共々力を合わせて創り出している」との、キッズサンガの願いを前面に打ち出しています。人間中心の社会になれなくなってしまっている子どもたちに、人間を超えた世界があることを、まず合掌することに違和感のない子どもになってもらうことから始め、どんなことがあっても裏切ることのない、どんな私でも見捨てることのない、南無阿弥陀仏の仏さまのお心に一人でも多くの子どもたちに触れてもらいたいと考えています。これも「仏法ひろまれ」の宗祖のお心に沿うことになると思います。

実は、私の思い出の一つに、私自身が日曜学校生であったとき、広島別院で催された「安芸教区ほとけの子ども大会」に日曜学校の仲間たちと参加した時の感動があります。とてつもなく大きく感じた広島別院の大屋根に目を見張り、その下に集う自分と同じ子どもが多くいることに驚き、またアトラクションで聞いたアンサンブル・フリージアの見事な演奏が耳に残っているのです。この思い出も、仏法に出会う大きなご縁であったと今にして気付いています。

それは50歳半ばを過ぎた私のみではなく、布教先に聴聞に来ていた青年は、『小学生時代に参加した児童念仏奉仕団で、本願寺の大きさにびっくりし、そこに多くの仲間たちがいることに安心感を抱いた。この経験が、自分のお寺にも親しみを感ずる大きなきっかけとなった』と語ってくれました。

例年の児童念仏奉仕団には、夏の暑い中、毎年約2,000名の子どもたちが、汗を流しながらの清掃奉仕や、多くの友だちと一緒にするレクリエーションを通して本願寺に親しみ、自分たちの本願寺であるということを、肌身で感じて帰っていきます。

このたびの少年行事では、その児童念仏奉仕団の趣旨を加味しつつ、キッズサンガの一環として各教化団体や各方面の方々とともに、子どもたちが笑顔で過ごせる内容にすべく企画しています。

この法要行事も「世のなか安穏なれ」の宗祖のお心を体したものにほかなりません。

多くの子どもたちに、本願寺で楽しく集い、荘厳な大遠忌法要にお参りしていただきたい

と思います。そして、阿弥陀さまと親鸞聖人を心に刻<sup>きざ</sup>み込み、笑顔で人生を歩むご縁にして  
いただきたいものです。

子どもから大人まで、みんなが笑顔で過ごすことのできる世のなかとなるためにも、明年  
の7月には子どもたちとともに本願寺にお参りください。

(中央キッズサンガ推進委員)